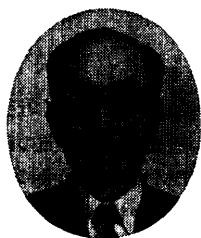


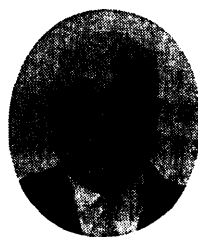
◆ 名 誉 会 員 の 紹 介 ◆

去る5月20日行われた第17回通常総会において、出川雄二郎、尾見半左右の両君が、多年国内あるいは国際的に情報処理の分野において顕著な業績を挙げ、また本学会の事業運営に特別の功績があったので、定款第6条によって名誉会員に推薦されました。ここに両君の経歴を紹介します。



出川 雄二郎 君

出川雄二郎君は神奈川県出身で、昭和8年東京工業大学電気工学科を卒業、翌9年に日本電気(株)に入社、以後各種の通信技術の研究開発に著しい功績を挙げた。昭和18年2月に「単側帯波金属変調器の理論的並びに実験的研究」により東工大から工学博士の学位を授与され、昭和38年には同社取締役役に就任した。一方昭和32年には電子計算機の開発、実用化に着目、世界最初の商用トランジスタ式電子計算機の開発に成功、以来エレクトロニクスの先端技術である電子計算機並びに集積回路事業の育成に尽力し、昭和45年、同社専務取締役役に就任し、同社のエレクトロニクス事業の確立に多大の貢献をした。この間(社)電子工業振興協会総合技術委員会委員、同協会電子計算機業務委員長、同電子計算機部会長あるいは科学技術庁電子技術審議会委員、通商産業省情報処理振興審議会委員等を歴任、我が国電子工業の基本計画、電子計算機高度化計画の策定等で政府に協力するなど国産技術開発の振興に尽力した。以上の諸功績により昭和34年紫綬褒章、49年藍綬褒章を、41年電子通信学会より功績賞を受けた。また昭和40年本学会副会長、42年から44年第四代会長として、会誌「情報処理」の月刊の実現、情報処理技術の国際交流、国際標準化の推進等、本学会活動の基礎を確立した。一方昭和49年3月に設立された日電東芝情報システム(株)初代の社長に就任、日電-東芝グループの新コンピュータ・シリーズの開発・製品化に成功し、業界に多大の貢献をした。更に超エル・エス・アイ技術研究組合設立に尽力、同組合理事に就任する等、引き続き斯界の発展に努力している。



尾見 半左右 君

尾見半左右君は茨城県に生まれ、大正12年東京高等工業学校(現東工大)電気科を卒業後、直ちに南満州鉄道(株)に入社し、鉄道通信技術の開発に従事した。昭和11年請われて富士通信機製造(株)(現、富士通(株))へ転じ、技術部門の責任者として技術開発及び技術者の教育指導にあたった。昭和20年同社取締役に就任して経営に参画、その後常務取締役、専務取締役兼神戸工業(株)社長を経て、昭和43年(株)富士通研究所代表取締役社長となり、昭和50年に退任した後も、富士通(株)技術相談役及び(株)富士通研究所相談役として研究開発の指導にあたっている。この間、搬送電話装置の開発に著しい成果をあげて、わが国電気通信事業発展の基礎を築いたのをはじめ、電磁継電器を利用した科学技術計算用電気計算機の開発を手掛けて、これを完成実用化し、今日の電子計算機技術の基礎を確立した。その後も純国産技術による電子計算機の開発に寄与し、今日の情報化時代を招来する上に果たした役割は極めて大きい。その他にも、半導体を含めたマイクロモジュール、固体回路の理論及び製作技術等の新技術の開発振興に尽力し、また超高速PCM方式、レーザー光等による超高速通信装置、ホログラフィックメモリスシステムなどの最新技術の開発も積極的に進めた。これらの功績により昭和33年毎日工業技術賞、同39年電気通信学会功績賞、同39年藍綬褒章、同46年勲三等瑞宝章をそれぞれ受賞した。

さらに公職に関しては、(社)電気通信学会会長、IEEE第9地区ディレクター、(社)情報処理学会会長などを歴任して、わが国の電子及び通信技術の発展に多大の貢献をなした。